

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社サニーライフ		
事業所名	グループホームサニーライフ		
所在地	青森県西津軽郡深浦町柳田字桜田34-5		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokai.go.jp/youho_ip/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270101769&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

深浦町と鰯ヶ沢町の境界線に位置し、施設前は国道で後ろは五能線と施設の畑や東屋があり、季節を感じられます。施設内から海を眺め夕日や波の音、汽車の音、車の音などが聞こえて1日の変化に気づくことができます。寝たきり予防に楽しみながらの歩行訓練や軽い体操、レクリエーションを行い筋力の現状維持に努めています。コミュニケーションを大切に自分らしく過ごせるように工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

入居者は馴染みの仲間との談笑や職員との団欒を楽しみながら、海の見えるリビングで1日の大半を過ごされている。職員は地域での催し物があれば入居者と共に足を運ばれているほか、誰もが気兼ねなくホームに来ていただけるよう訪れた方々に温かな心配りがされていることもあって、入居者の知人、友人のみならず地域の方々も気軽にホームを訪れている。代表者、管理者、職員は、家族こそが最も身近にいるサービスの評価者であるとの認識のもと、家族アンケート結果等を真摯に受け止め、評価の高まりを励みとし、常に利用される側に立って日々のサービスを点検されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホームに掲示し、管理者と職員は入居者が何を求めているかに気づき、理念の実践に取り組んでいます。	地域との繋がりや交流を大切にしたホーム独自の理念を掲げ、全職員で共有しあい、日々実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会所に出向き、地域と交流を深めたり、手作りのお手玉や野菜、山菜を頂いたり近所の乳幼児が立ち寄りたりして交流を深めています。	職員は近所の人を通りかかれば声をかけたり、地域の住民が集まる場所や催し物に入居者と一緒に足を運ぶ等されていることあつて、地域の方々が気軽にホームを訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の生きがい活動に参加したり保育園や小学校の運動会などに出席した際に援助方法を観ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果は職員に閲覧し、そこでの意見を活かしサービス向上につなげています。	運営推進会議では外部評価の結果などが報告され、そこでの意見をサービスに活かしているが、会議は参加者の負担などに配慮して3ヶ月毎に開催している。	運営推進会議の位置づけという観点以上に、外部評価に頼らずとも自らのサービスを客観的に点検するシステムを確立されているので、開催回数の見直しについて関係者と話し合うことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、町のケアプラン検討会議、サービス担当者会議に出席し連携を密にして質の向上に取り組んでいます。	町が地域福祉の推進役としての役割を率先して担ってきた土地柄ということあつて、担当者とは何でも気軽に相談しあえる関係にあり、共にサービスの質の向上に取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを職員全員が持ち、いつでも確認できるようにしています。玄関はチャイムが鳴るが自由に外へ出ることができます。ベットはその人に合わせ柵で囲まないようにしています。	指定基準における禁止の対象となる身体拘束について熟知され、身体拘束のないケアを実践されている。玄関の前に交通量の多い国道があるためチャイムを設置しているが、その音量の低減化については検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加したり施設の内部研修にも虐待防止を取り入れたり、言葉や目線、声のトーンなどにも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を活用しています。職員も理解をして支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分に説明を行い納得をされています。解約時は、本人や家族の希望に添うように配慮をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者とコミュニケーションをとりながら聞き出したり、家族からの意見や要望も全員で話し合いをして改善に努めています。	入居者は思っていることを、気軽に職員に話している。また、家族こそが最も身近にいるサービスの評価者であるとの認識のもと、家族アンケート結果等を真摯に受け止め、さらなる利用満足度の引き上げのために活用されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は必要に応じて職員から意見を聴き、運営に活かしています。	代表者は職員会議のほか、年一回、直接職員に面談して意見を聴いている。現場の意見は運営に反映され、入居者のよりよい暮らしの実現のために活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員全員の勤務状況を把握し各自がやりがいや向上心を持って働けるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は年数に応じて外部研修を受けています。また、施設でも内部研修を行い全員でケアの向上に勤めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画担当者は行政の会議に出席して同業者との交流を深めています。また、職員にも伝え質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、本人と家族の希望を聴きだし要望などに耳を傾けています。不十分な点はサイド連絡をとるなどして、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活状況を知り家族の不安や要望などに耳を傾け、安心できるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で最初に何が必要かを見極めて支援を始めています。他の支援事業所からも情報提供を受けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとりながら得意、不得意を見出し一緒に行うように心がけている。入居者同士もお互いに思いを言える雰囲気になっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の心身の変化や行動、習慣で分からない事は家族に連絡を取っています。家族と一緒に本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人、友人に合いに来てもらったり出かけたりしています。外出した際は自宅へ立ち寄ったりと馴染みが途切れないように支援をしています。	職員はホームを訪れた入居者の知人、友人等に気軽に声をかけ、温かく接し、皆が気兼ねなく訪問できるよう心配りされている。また、入居者と相談しながら入居者が行きたい場所、会いたい人に会えるよう、一人ひとりの思いを支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は良く、会話が多く聴かれます。喜怒哀楽も素直に出せれるような支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設へ入所しても心身の状態やケアの情報交換を行っています。家族を見かけた際は声をかけ近況を聞いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに担当者がいて思いや意向などを聴き出し、把握をしています。会議などで全員の情報交換をして共有し、支援を行っています。	思いや意向を伝えられない入居者も含め、一人ひとりの入居者の暮らしに対する意向が詳細に記録され、職員はそれらを日々念頭に置いて支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、必要に応じて在宅で担当した支援事業所からも情報を得ています。早く穏やかに過ごせるように配慮をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から1日の過ごし方を聴き出し、把握をしています。援助に時間がかかってもその人らしさを引き出すような支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者のアイデアを活かしています。本人の好む過ごし方や生活に役割を持たせ、生きがいに繋がるような計画を作成しています。	介護計画は本人、家族の生活に対する意向を踏まえた本人本位の内容となっている。また、定期的な見直しに加え、本人の状態に変化が生じた場合などには、その都度、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、ケア実践、結果、気づきなどを個別に記入し情報を共有しています。それらを介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により対応が困難な場合は、施設で臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、高齢者、乳幼児の慰問を受けたり保育園や小学校の運動会などの行事に出かけたりして、交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望した医療機関を利用しています。かかりつけ医は本人の思いを聴き出し、事業所に適切にアドバイスをしてくれます。	入居者が希望するそれぞれの病院や専門医に通えるよう送迎、付き添い、関係機関や家族等との連絡調整など、必要な支援をされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護職員がいて健康管理に努めています。緊急時はかかりつけ医の看護師に相談しながら対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供して安心して治療ができるようにしています。本人との面接時は励ましたり、また家族への情報提供も密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、本人と家族に重度化した場合についての説明をしています。本人と家族の希望を受け、またかかりつけ医とも連携をとりながら支援しています。	重度化した場合に備え、入居者、家族が不安を抱かないようホームとしての具体的な支援策を例示しながら、丁寧に説明されている。	重度化された場合の支援方法や短期間の看取りが必要になった場合に、ホームとしての具体的な支援内容を重要事項説明書等に明記されることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員から応急手当や急変などの事故発生時の訓練を受けています。職員全員が実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町の災害避難訓練に参加したり消防署員からも訓練を受けています。また、近隣との協力体制も築いています。	毎年、町の防災訓練に参加して地震や津波に備えている。火災訓練についても、消防署や近隣住民の参加や協力を得ながら定期的実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活暦や性格を把握し言葉や声のトーンを下げ、その人にあった対応をしています。職員はプライバシー保護のための同意書に署名捺印を一人ひとりが自覚しています。	生活支援の各場面で、その都度、入居者の意向や希望、関心を聞きだしながら支援されている。また、職員の言葉かけは丁寧で、入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはされていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを行いながら思いを聴いたり、表情や反応を把握しています。その人らしく日常生活が送れるように支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースに合わせてできるだけその人らしさを失わないように工夫して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向を尊重しています。玄関前の大きな鏡で身だしなみを見せたり化粧や整髪を確認しその人らしさを引き出しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム畑の野菜や山菜の下ごしらえをしながら食べる楽しみにつないでいます。職員も一緒に食事や後片付けをしています。	入居者は個々の希望や心身の状態に応じ、食材の下ごしらえや後片付けを職員と一緒にしている。食事の時間は、家庭と同じように下ごしらえの進捗状況やその日その日の入居者のペースに合わせたものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ量や切り方、栄養バランス、器や介助に工夫をしています。一日の水分量と排泄量や回数もさりげなく把握し、支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄とうがいをして口腔内の清潔保持をしています。夜間は除菌剤で消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつを使用しても時間を決めてトイレへ排泄誘導し、失禁しないようにしています。衣類の上げ下げも声がけをしながら出来るところを行ってもらっています。	職員は、入居者一人ひとりの排泄パターンやその方の能力を把握され、羞恥心に配慮しながら、さりげなくトイレに誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行や軽体操を毎日行ったり、水分摂取量の把握や食べ物にも工夫をしています。トイレ誘導で便意を感じさせたりして予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	安全管理のため入浴日は決めています。一人ひとりの好みの温度や入浴するタイミングは本人に合わせるように支援をしています。	常時見守りする職員を確保できる日が週3日が限度という理由で入浴日を決めているが、入浴日以外の日も、清拭やシャワー浴で対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室にいる時間は少なく活動をしています。夕食後は早めに入室をして休息を取りながら、そのまま就寝できるように配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録ファイルの中に薬の説明書を綴じ、常に確認できるようにしています。服薬支援後、症状の変化に気づけるようにコミュニケーションを取りながら確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作りが得意な入居者には畑作りの支援、裁縫など好む入居者には職員が見守りしながら支援するなど、色々工夫して気分転換ができるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は外出をして日光浴を楽しんだり、地域の名所めぐりや希望を把握し思い出めぐり、遠方へ買い物に出かけたりしています。	職員は入居者がホーム内に閉じこもらないように散歩や地域の催し物など一緒に出かけている。また、入居者が個人的に立ち寄りた場所や、季節を感じられる場所に馴染みの仲間と一緒に出かけられるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のある入居者は管理ができる範囲内の小遣いを保管させています。関心のない入居者は家族の同意のもとで施設が管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼の電話をする際に本人の喜びの声を聞かせたり、家族へ電話をして声を聴きたいと希望されればかけれるように支援しています。手作りのはがきを家族に送り絆を深めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビや音楽の音量はそのときの状況に合わせるなどの配慮をし、ブラインドで光の調節をしています。ボードに季節感作りをしたり、季節の食材を取り入れた献立を作成しています。	入居者は見慣れた海が見えるリビングで、馴染みの仲間との談笑や職員との団欒を楽しみながら、1日の大半を過ごされている。テレビはその暮らしを妨げない場所に、冷房器具は冷たい風が苦手な人も、暑さが苦手な人も、共にリビングで過ごせる場所に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファは気の合う人を隣に座らせて居心地をよくしています。玄関前や廊下にソファや藤いす、テーブルを置き好みの場所で過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、好みの物、家族からの贈り物を飾り、床に畳を敷いてくつろげる雰囲気作りをしています。	居室は、馴染みの調度品や思い出の品に囲まれ、入居者は思い思いに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせて一人ひとりのベットにも変化を付けています。手すりや押し車などを活かし、自立した生活が送れるように工夫をしています。		